

# たのしい算数4年

## 年間指導計画案

（学校での授業と、学校での授業以外の場において取り組む学習活動の併用版）

大日本図書編集局

### 【本資料の作成の考え方】

本資料は、休校措置にともなって学校の授業時間が十分に確保できない現状をふまえ、令和2年度用教科書「たのしい算数」について、学校の授業以外で取り組む学習等を年間の指導計画に示したものです。本資料では、以下の考え方をもとに、指導計画を作成しています。

- 授業は1単位時間45分で行われることを前提としています（30分の短縮授業などを取り入れる形式は想定していません）。
- 教科書の主問題（四角番号の問題）は、原則的に授業で扱うこととしています。
- 一部の主問題については、予習を活用して2時間扱いの部分を1時間で扱うなど、短縮が考えられる箇所を示しました。
- 学校の授業以外で取り組む学習活動については、主に知識・技能の習熟を目的とした時間（単元末のたしかめ問題など）や既習の内容の活用を目的とした特設ページなどを想定しています。
- 一部の特設ページについては、地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられることを示しました。

本資料はあくまで1つの例として示しています。各地域・学校の実情に合わせて、学校の授業以外での学習活動を増減していただくなど、弾力的にご活用ください。

## 【本資料の見方】

平時：授業時数127 → 授業以外での学習を取り入れた場合：授業内112＋授業以外15

1 対称な図形 (指導時期 4月・10時間) → 授業内9時間＋授業以外1時間

### 単元の目標

対称性に着目して図形を考察し、線対称、点対称の意味や性質などを理解し、対称な図形を作図することができる。  
 知 線対称な図形や点対称な図形の意味や性質、作図の仕方について理解し、対称な図形を弁別したり、作図したりすることができる。  
 考 対称という見方で図形を分類したり、性質や規則性を見出したりすることができる。また、線対称、点対称な図形の作図の仕方、性質をもとにして考えることができる。  
 主 既習の図形を対称という観点で見直そうとしたり、身の回りから対称な形を見つけようとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場での留意点
1 対称な図形 (教p.10～13)	1	①(アプローチ) ◎身の回りの「整った形」を観察することを通して図形の対称性に気づき、線対称、点対称な図形をみる観点として捉える。 ◎「線対称な図形」「点対称な図形」の用語とそれらの定義を理解し、図形を弁別する。	知 「線対称」「対称の軸」「点対称」「対称の中心」の用語とそれらの意味を理解し、線対称な図形、点対称な図形を弁別できる。 考 身の回りの形や既習の多角形などについて、対称性に着目して考察している。	学校の授業以外の場での留意点
2 線対称な図形 (教p.14～16)	2	◎線対称な図形の対応する点、辺、角を比べる。	知 線対称な図形について、対応する点、辺、角の意味や性質を理解している。	
	3	◎対応する点を結ぶ直線と対称の軸との関係を探る、線対称な図形の性質を理解する。	知 線対称な図形の対応する2点を結ぶ直線は、対称の軸によって垂直に2等分されることを理解し、その性質を用いて、対応する点を見つけることができる。	
	4	◎線対称な図形を作図する。	知 線対称な図形の性質を用いて、線対称な図形を作図することができる。 考 線対称な図形の性質をもとに、作図の方法を考え、説明している。	
3 点対称な図形 (教p.17～19)	5	◎点対称な図形の対応する点、辺、角を比べる。	知 点対称な図形について、対応する点、辺、角の意味や性質を理解している。	
	6	◎対応する点を結ぶ直線と対称の中心との関係を探る、点対称な図形の性質を理解する。	知 点対称な図形の対応する2点を結ぶ直線は、対称の中心を通り、対称の中心によって2等分されることを理解し、その性質を用いて、対応する点を見つけることができる。	
	7	◎点対称な図形を作図する。	知 点対称な図形の性質を用いて、点対称な図形を作図することができる。 主 線対称な図形を、性質をもとに作図したことを振り返り、点対称な図形も性質をもとに作図しようとしている。	
4 多角形と対称 (教p.20～21)	8	◎既習の四角形を対称の観点から見直す。	知 既習の四角形や三角形を対称という観点で捉え、対称の軸や対称の中心をかき入れることができる。 主 四角形の対称の学習をもとに、他の既習の図形についても、対称の観点で見直そうとしている。	予習でp.20主問題1の三角1、2、p.21主問題2の三角1、三角2の表をつくることに取り組む。 授業ではp.20.21の表を見て話し合うことから、はじめ、第8時、第9時を1時間で指導することも考えられる。
	9	◎既習の正多角形を対称の観点から見直す。	知 正多角形に對称の軸や對称の中心をかき入れることができる。 考 正多角形の対称性に着目し、正多角形と対称の軸の本数や、点対称になる場合の中心について見出している。	
たしかめ問題 (教p.22～23)	10   配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 線対称な図形や点対称な図形の性質を理解し、図形を弁別したり、作図したりできる。 考 線対称な図形の弁別を台形の意味に着目して考えている。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまりが見られる場合は、個別に支援する。
ふくろう先生の なるほど算数教室1 (教p.24～25)		◎身の回りから対称な形を探したり、折り紙で対称な形を作ったりして、図形の見方を深め、図形への興味・関心を高める。	主 身の回りに対称な図形があることに気づき、進んで探そうとしている。	

平時の場合の指導時期・指導時数

授業以外での学習活動を取り入れた場合の指導時数

表中でオレンジ色とした箇所を授業以外にした場合の時数です。表中で「～することも考えられる」と示した部分を活用すると、さらに学校の授業時間を削減することができます。

授業や授業以外での指導の留意点を示しています。

平時に授業で扱うことを想定していた学習活動のうち、授業以外で取り組むこととする箇所はオレンジ色をつけました。

また、もともと時数配当されておらず、予備時数などで扱うことを想定していた学習活動については、グレーの色で示しています。

# 4 年

平時：授業時数158 → 授業以外での学習を取り入れた場合：授業内133 + 授業以外25

※無理なく着実に学習を保障することに配慮し、さまざまな取り組みを行ったうえで、なお年度当初に予定していた内容の指導を年度内に終えることが困難である場合には、特例的な対応として、内容の一部を次年度の指導で扱うことも考えられる。その場合でも、p.252の「4年のふくしゅう」は、今年度中に扱うことが望ましい(次年度に送った学習にあたる問題は省略する)。

## 1 折れ線グラフと表 (指導時期 4月・11時間) → 授業内9時間 + 授業以外2時間

### 単元の目標

身の回りの事象について、目的に応じて資料を分類整理し、折れ線グラフや二次元の表に表したり、資料の特徴や導き出した結論について考察したりすることができる。

知 折れ線グラフの特徴とその用い方を理解し、グラフ用紙の大きさや目的に応じて適切な折れ線グラフをかいたり、読み取ったりすることができる。また、資料を2つの観点から分類整理し、表を用いて表したり、読んだりすることができる。

考 目的に応じて資料を集めて分類整理し、資料の特徴や傾向に着目して適切なグラフに表し、その結果について考察することができる。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 折れ線グラフの読み方 (教p.10～15)	1  2 3 ↓ 1 時間 扱い	<p>【アプローチ】</p> <p>◎教p.10～11の場面から、東京の気温の変化を分かりやすく表す方法に関心をもち、本単元の見通しをもつ。</p> <p>◎折れ線グラフが用いられる場合について理解する。また、折れ線グラフの特徴や読み方を理解する。</p> <p>◎2つ以上の事象の変わり方が表されたグラフについて理解し、資料の特徴を読み取る。</p> <p>◎波線でグラフを省略するなどして、折れ線グラフの縦軸の幅を変えると、変化の様子が見やすくなることを理解する。</p>	<p>知 折れ線グラフの特徴や読み方を理解し、折れ線の傾きに注目して、グラフから変化の様子を読み取ることができる。</p> <p>主 折れ線グラフを用いると、変わり方の特徴が調べやすくなるという折れ線グラフの良さに気づいている。</p> <p>知 2つ以上の事象の変わり方が表されたグラフについて理解し、読み取ることができる。</p> <p>考 2つ以上の事象の変わり方が表されたグラフから、変わり方の違いを読み取り、説明している。</p> <p>考 折れ線グラフの縦軸の幅を変えると、見え方が変わることに気づき、その違いを説明している。</p>	<p>p.14主問題2とp.15主問題3は比較的短時間で扱える内容であるので、p.14鉛筆問題3を授業以外の扱いにするなどして、この2ページを1時間で扱う。</p>
2 折れ線グラフのかき方 (教p.16～18)	4 5  6	<p>◎折れ線グラフの表し方を理解し、資料を折れ線グラフに表す。</p> <p>◎2つ以上の事象の変わり方を1つのグラフ用紙に表し、変化の違いを読み取る。</p> <p>◎グラフ用紙の大きさや目的に応じて、適切な1目盛りの大きさを決めて、折れ線グラフに表す。</p>	<p>知 折れ線グラフの表し方を理解し、資料を折れ線グラフに表すことができる。</p> <p>考 2つ以上の折れ線グラフを比較し、その変化の特徴を読み取り、説明している。</p> <p>知 目的に応じてグラフの縦軸の1目盛りの大きさを決めて、折れ線グラフに表すことができる。</p> <p>考 グラフから読み取った内容を批判的に考察している。</p>	
3 折れ線グラフと棒グラフ (教p.19～20)	7	◎折れ線グラフと棒グラフを組み合わせたグラフについて理解する。また、その特徴を読み取り、変化の関係を考察する。	<p>考 複数系列のグラフからその特徴を読み取り、変化の関係を見出している。</p> <p>主 日常の事象から問題を見出し、グラフを用いて解決しようとしている。</p>	
4 表 (教p.21～25)	8  9  10	<p>◎資料を2つの観点から分類整理して二次元の表に表し、その仕組みや読み方について理解する。</p> <p>◎目的に応じて資料を分類整理し、二次元の表に表す。</p> <p>◎資料を2つの観点から落ちや重なりがないように分類整理して二次元の表に表し、資料の特徴を読み取る。</p>	<p>知 二次元の表の仕組みを理解し、資料を2つの観点から落ちや重なりがないように分類整理し、表に表すことができる。</p> <p>主 二次元の表の良さに気づいている。</p> <p>考 二次元の表から、気づいたことや分かったことを説明している。</p> <p>主 資料をもとに、自ら観点を決めて二次元の表に整理しようとしている。</p> <p>知 落ちや重なりがないように資料を整理し、表に表すことができる。</p> <p>考 資料を2つの観点から分類整理して表に表し、資料の特徴について考え、説明している。</p>	
たしかめ問題 (教p.26～27)	11 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<p>知 折れ線グラフや二次元の表を読み取ったり、表したりすることができる。</p> <p>考 2つの折れ線グラフをもとに、資料の特徴に着目し、それをもとに問題に対する結論を考え、説明している。</p>	学校の授業以外で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で扱う。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。
読み取る力をのばそう (教p.28～29)	1	◎表やグラフを正しく読み取り、結論が正しいかどうか考察する。	<p>知 資料を表や折れ線グラフに表すことができる。</p> <p>考 折れ線グラフや棒グラフから資料の特徴を読み取ったり、批判的に考察したりしている。</p>	地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。

## 2 わり算の筆算（指導時期 4～5月・10時間） → 授業内9時間 + 授業以外1時間

### 単元の目標

2, 3位数÷1位数の除法について、既習の計算や図などをもとに計算の仕方を考え、筆算で計算することができる。  
 知 2, 3位数÷1位数の計算の仕方や筆算の仕方について理解し、計算することができる。また、「除数×商+あまり=被除数」の関係を用いて、除法の計算の確かめをすることができる。

考 既習の計算や図などをもとに、2, 3位数÷1位数の計算の仕方を考え、説明することができる。

主 2, 3位数÷1位数の計算の仕方を、既習の計算を生かして考えようとしたり、発展的に桁数の多い計算について考えようとしたりする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 (2けた)÷(1けた)の計算 (教p.30～39)	1	〔アプローチ〕 ◎既習の除法の計算の仕方を振り返り、十の位がわりきれない2位数÷1位数の計算に対する興味・関心を高め、本単元の見通しをもつ。	知 十の位がわりきれない2位数÷1位数の計算の仕方を理解している。 考 十の位がわりきれない2位数÷1位数の計算の仕方を既習の除法や図などをもとに考え、説明している。 主 2位数と1位数の多様な計算方法について、それぞれの考えのよさを認めたり、関連付けたりしながら、話し合っている。	
		◎十の位がわりきれない2位数÷1位数の計算原理や方法を理解する。		
	3	◎十の位がわりきれない2位数÷1位数の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 十の位がわりきれない2位数÷1位数の筆算の仕方を理解し、計算できる。	
	4	◎「和」、「差」、「積」、「商」の用語とそれらの意味や「除数×商+あまり=被除数」の関係を理解し、答えの確かめをする。 *「和」、「差」、「積」、「商」の漢字の意味を知り、用語の理解を深める。	知 あまりのある2位数÷1位数の筆算の仕方を理解し、計算できる。また、被除数、除数、商、あまりの関係やその用い方を理解している。	
	5	◎2位数÷1位数で、商の一の位が0になったり、商が1位数になったりする除法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 2位数÷1位数で、十の位がわりきれない除法、商の一の位が0でありある除法、商が一の位からたつ場合の除法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 主 2位数の除法の学習をもとに、3位数の除法もできないかと発展的に新しい問題を見出している。	
2 (3けた)÷(1けた)の計算 (教p.40～43)	6	◎3位数÷1位数で、各位がわりきれない除法の計算原理や方法を理解し、計算する。	知 各位がわりきれない3位数÷1位数の計算の仕方を理解している。 主 3位数÷1位数の計算の仕方を、2位数÷1位数の計算の仕方をもとに考えようとしている。	
	7	◎3位数÷1位数で、商が3位数になる除法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 3位数÷1位数で各位がわりきれない除法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 3位数÷1位数で各位がわりきれない除法の筆算の仕方を、2位数÷1位数の仕方をもとに考え、説明している。	
	8	◎3位数÷1位数で、商の一の位や十の位が空位になる除法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 3位数÷1位数で、商の一の位や十の位が空位になる場合の筆算の仕方を理解し、計算できる。	p.42, 43の鉛筆問題を授業以外の扱いにするなどして、この2ページを1時間で扱うことも考えられる。
	9	◎3位数÷1位数で、商が2位数になる除法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 3位数÷1位数で、商が2位数になる除法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 数の構成に着目し、3位数÷1位数で、商が2位数になる場合の筆算の仕方を、各位に商がたつ除法をもとに考え、説明している。	
たしかめ問題 (教p.44～45)	10 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 2, 3位数÷1位数の計算ができる。それを用いて問題を解決することができる。 考 3位数÷1位数の計算の仕方を、図を用いて説明している。	学校の授業以外の場合で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間でやる。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。
ふくしゅう (教p.46)		◎復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。		学校の授業以外の場合で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。
暗算 (教p.46)	1	◎わりきれない2位数÷1位数の除法を暗算で計算する。	知 2位数÷1位数の計算が暗算でできる。 考 数の構成に着目して、2位数÷1位数の暗算の仕方を考え、説明している。	

\* 算数たまてばこ

### 3 角度（指導時期 5月・7時間） → 授業内6時間 + 授業以外1時間

#### 単元目標

角の大きさの表し方を考え、単位「度（°）」について理解し、分度器を用いて角の大きさを測定したり、角を作図したりすることができる。  
 知 角の大きさを回転の大きさとして捉え、その単位「度（°）」の意味や、分度器を用いた測定の仕方、角のかき方を理解し、測定したりかいたりすることができる。  
 考 角の大きさについて、既習の測定の考え方をもとにして、単位のいくつ分で捉える方法を見出すことができる。また、180°より大きな角のはかり方やかき方を工夫することができる。  
 主 身の回りにある形を角度に着目して捉えようとするなど、角の単位や測定を生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 角の大きさ (教p.47～54)	1 2	〔アプローチ〕 ◎教p.47の写真をとに、角の大きさに対する興味・関心を高め、本単元の見通しをもつ。 ◎回転による角の意味を知る。 ◎角の大きさを表す単位「度」を知り、分度器を用いて180°以下の角度を測定する。	知 回転の量としての角の大きさの意味を理解している。また、角の大きさを表す単位「度（°）」の意味や、分度器を用いた測定の仕方を理解し、測定することができる。 考 角の大きさを、もとにする大きさのいくつ分で捉える方法を考え、説明している。 主 角の大きさを単位を用いて表す良さに気づいている。	
		◎三角定規のそれぞれの角の大きさを知り、三角定規を組み合わせてできる角の大きさを求める。	知 三角定規のそれぞれの角の大きさを理解している。 考 三角定規の角を組み合わせてできる角の大きさを和や差として考えている。	
		◎分度器を用いて、180°より大きい角度を測定する。	知 分度器を用いて、180°より大きい角度を測定することができる。 考 180°より大きい角度のはかり方を工夫し、説明している。	
	3 4			p.52の鉛筆問題を授業以外の扱いにするなどして、第3時の学習を第1、2時とあわせて扱うことも考えられる。
2 角のかき方 (教p.55～56)	5	◎分度器を用いて、与えられた大きさの角をかく。	知 分度器を用いた角の作図の仕方を理解し、角を作図することができる。 考 180°より大きい角のかき方を工夫し、説明している。	
	6	◎角のかき方を活用して、三角形を作図する。	知 角のかき方をもとに、三角形を作図することができる。 主 角のかき方を振り返り、それを三角形のかき方に生かそうとしている。	
たしかめ問題 (教p.57～58)	7 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 分度器を用いて角の大きさを測定したり、角や三角形を作図したりすることができる。また、三角定規の角を組み合わせてできる角の大きさを求めることができる。 考 三角定規の角を組み合わせてできる角の大きさを和や差として考え、説明している。	学校の授業以外の場合で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間でやる。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。

### 4 大きな数（指導時期 5～6月・8時間） → 授業内6時間 + 授業以外2時間

#### 単元目標

億や兆の位について理解し、十進位取り記数法による表し方の理解を深める。また、桁数が多い乗法の計算の仕方を既習事項をもとに考えたり、計算のきまりを使って、工夫して計算したりすることができる。  
 知 億や兆の位の数の構成、表し方、読み方を理解するとともに、十進位取り記数法の特徴を理解する。また、桁数の多い乗法の計算の仕方や末尾に0がある数の乗法の工夫の仕方を理解し、計算することができる。  
 考 既習の数の仕組みから類推して、大きな数の読み方、表し方を考え、整数の仕組みを統合的に捉えることができる。また、既習の計算の仕方をもとに、桁数の多い乗法の計算の仕方を考えることができる。  
 主 数の表し方や読み方について、発展的に数の範囲を拡張して考えようしたり、十進位取り記数法の良さに気づいたりするとともに、数の表し方や読み方を生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 億や兆の位 (教p.59～63)	1 2 ↓ 1 時間 扱い	◎日本の小学生の人数などから大きな数に対する関心をもち、一億の位までの数の構成や読み方、表し方を理解する。	知 一億の位までの数の構成や読み方、表し方を理解し、読んだり表したりすることができる。 考 一億の位までの数の読み方を、既習の数の読み方から類推して考えている。	p.59主問題1、p.61主問題2は比較的短時間で扱える内容であるため、鉛筆問題を授業以外の扱いにするなどして、第1、2時を1時間扱いとする。
		◎1億の10倍、100倍、1000倍の数を求め、1億より大きい数も十進位取り記数法に基づいていることを理解する。	知 千億の位までの数の構成や読み方、表し方を理解し、読んだり表したりすることができる。 主 千億の位までの数の学習をもとに、さらに大きな数も考えられないかと発展的に新しい問題を見出している。	



* 数の区切り方 (教p.63)	3	◎兆という単位を知り、千兆の位までの数も十進位取り記数法に基づいていることを理解する。 * 数を3桁区切りで表すことがあることを知る。	知 千兆の位までの数の構成や読み方、表し方を理解し、読んだり表したりすることができる。	
2 整数のしくみ (教p.64～66)	4	◎ある数を10倍した数や1/10にした数をつくることにより、十進数についての理解を深める。	知 ある数を10倍した数や1/10にした数の表し方や、位の変わり方を理解している。	
* いろいろな数字 (教p.66)	5	◎十進位取り記数法では、どんな大きさの数でも0～9の10個の数字を使って表すことができることを理解し、その特徴をまとめる。 * 歴史上使われていた各国の数字について知り、その記数法の意味を捉える。また、古代数字の使われ方に興味・関心を持ち、算用数字の良さに気づく。	知 算用数字では、どんな大きさの数でも0～9の10個の数字を使って表せることを理解している。	
3 かけ算  (教p.67～68)	6	◎3位数×3位数、4位数×2位数の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 3位数×3位数、4位数×2位数の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 3位数×3位数の筆算の仕方を既習事項をもとに考え、説明している。	
	7	◎末尾に0のある数の乗法は、結合法則や交換法則を使うと、能率的に計算できることを理解し、その方法を用いて計算する。	知 乗法のきまりを用いて、計算を工夫することができる。 考 乗法のきまりを用いた乗法の計算の工夫の仕方を説明している。	
たしかめ問題 (教p.69～70) * 兆より大きな数の位 (教p.70)	8 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。 * 兆より大きな数の位も一、十、百、千の繰り返しになっていることを知る。	知 千兆の位までの数の構成や読み方、表し方を理解している。また、桁数の多い乗法の計算ができる。	学校の授業以外で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間でやる。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。
読み取る力をのばそう (教p.71) ふくろう先生 のなるほど算数教室1 (教p.72～73)	1	◎0から9までのカードを1枚ずつ使って、条件を満たす整数をつくる。 ◎英語の数の読み方を知り、大きな数の読み方のきまりについて考える。	考 数の構成に着目して、指定された数のつくり方を考え、説明している。 主 数の読み方について、英語と日本語の違いに気づき、それぞれの良さを認めたり、関連付けたりしながら、話し合っている。	地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。

\* 算数たまたばこ

## 5 式と計算（指導時期 6月・6時間） → 授業内5時間 + 授業以外1時間

### 単元目標

( )を用いた式や四則の混合した式の意味、計算の順序を理解し、数量の関係に着目して問題場面を簡潔、一般的に表現したり、計算したりすることができる。また、計算に関して成り立つ性質の理解を深め、それを活用して計算を工夫することができる。  
知 ( )を用いた式や四則の混合した式の意味や計算の順序を理解し、式を立てたり、その式を計算したりすることができる。また、四則に関して成り立つ性質を活用し、工夫して計算することができる。  
考 四則の混合した問題場面の数量の関係に着目し、簡潔、一般的に表現したり、式の意味を読み取って説明したりすることができる。  
主 ( )を用いたり、四則を混合させたりして1つの式に表すことで、数量の関係を簡潔に表せる良さに気づき、学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 ( )のある式 (教p.74～77)	1	◎加減混合の問題を、( )を用いて1つの式で表す方法や、計算の順序を理解し、計算する。	知 2段階の構造(加法、減法)の問題を、( )を用いて1つの式に簡潔に表す方法や計算の順序を理解し、計算できる。 考 2段階の構造(加法、減法)の問題を、( )を用いて1つの式に簡潔に表す方法や計算の順序を考え、説明している。 主 ( )を用いて1つの式に簡潔に表す良さに気づき、学習に生かそうとしている。	
	2	◎四則混合の問題を、( )を用いて1つの式に表し、計算する。	知 2段階の構造の問題(乗除、加減)を、( )を用いて1つの式に簡潔に表す方法や計算の順序を理解し、計算できる。	
2 +, -と×, ÷の まじった式 (教p.78～79)	3	◎乗除の( )を省くことや、乗除を先に計算することを理解し、計算する。	知 四則混合の式の意味や計算の順序を理解し、計算できる。	p.78, 79の鉛筆問題を授業以外の扱いにするなどして、この2ページを1時間で扱うことも考えられる。
	4	◎四則混合式の計算の順序の理解を深め、それをまとめる。	知 四則混合の式を計算することができる。	
3 計算のきまり (教p.80～81)	5	◎分配法則が成り立つことを理解し、交換法則、結合法則とともに○, △, □を使った式にまとめる。	知 分配法則や既習の計算法則を活用し、工夫して計算することができる。 考 分配法則の意味を、図や式を用いて説明している。	

たしかめ問題 (教p.82～83)	6 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 問題場面を、( )を用いた式や四則混合の式に表したり、計算したりすることができる。 考 問題場面と、( )を用いた式や四則混合の式とを関連付けて考えている。	学校の授業以外で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間でやる。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。
----------------------	-----------------------	-------------------------------	---	---

## 6 垂直、平行と四角形（指導時期 6～7月・15時間） → 授業内13時間 + 授業以外2時間

### 単元の目標

垂直や平行について理解し、垂直、平行な直線をかくことができる。また、図形の構成要素や位置関係に着目して台形、平行四辺形、ひし形の特徴を見出し、図形を弁別したり、作図したりすることができる。また、いろいろな四角形の対角線の性質について理解する。  
 知 垂直、平行、平行四辺形、台形、ひし形の定義や性質を理解し、2つの直線が垂直、平行になっているかを調べたり、図形を弁別したり、垂直、平行な直線や平行四辺形、台形、ひし形を作図したりすることができる。  
 考 図形の構成要素や位置関係に着目して、台形、平行四辺形、ひし形を弁別したり、それらの特徴を見出したり、作図の仕方を考えたりすることができる。  
 主 身の回りから、垂直や平行、いろいろな四角形を見つけようとして、敷き詰めや模様などの美しさに気づいたりする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外で扱う場合の留意点
1 垂直 (教p.84～89)	1	〔アプローチ〕 ◎教p.84の写真を見て、直線の交わり方や並び方、四角形に対する興味・関心を高め、本単元の学習の見通しをもつ。 ◎「垂直」の用語とその意味を理解し、垂直な直線を見つける。 *「垂」、「直」の漢字の意味を知り、「垂直」の用語の理解を深める。	知 「垂直」の用語とその意味を理解している。 主 身の回りの物の形から、垂直を見出そうとしている。	
*「垂」「直」の意味 (教p.87)	2	◎ひと組の三角定規を用いて、垂直な直線をひく。	知 垂直な直線のひき方を理解し、三角定規を用いてひくことができる。	
2 平行 (教p.90～95)	3	◎「平行」の用語とその意味を理解し、平行な直線を見つける。 ◎平行な2直線間の幅は、どこも等しくなっていることを理解する。	知 「平行」の用語とその意味、平行な直線の幅はどこも等しくなっていることを理解している。 考 2本の直線の並び方を、他の1本の直線との交わり方に着目して考えている。	
	4	◎ひと組の三角定規を用いて、平行な直線をひく。	知 平行な直線のひき方を理解し、三角定規を用いてひくことができる。	
*いろいろな垂直や平行 (教p.95)	5	◎平行な直線は、他の平行でない直線と等しい角度で交わることを理解する。 ◎方眼上の直線の垂直や平行の関係を理解する。 *身の回りから垂直や平行になっている物を探す。	知 平行な直線は、他の直線と等しい角度で交わることを理解している。また、方眼を活用して、垂直な直線や平行な直線を見つけたりかいたりすることができる。 主 身の回りから垂直や平行になっている物をいろいろと見つけようとしている。	
3 台形と平行四辺形 (教p.96～101)	6	◎いろいろな四角形をつくり、それらを分類する活動を通して、「台形」、「平行四辺形」の用語とそれらの定義を理解し、弁別する。	知 「台形」、「平行四辺形」の用語とそれらの定義を理解している。また、2本の平行な直線を用いて、台形や平行四辺形を作図することができる。	
	7	◎2本の平行な直線を用いて、台形や平行四辺形を作図する。	考 いろいろな四角形を、辺の並び方などに着目して分類している。 主 身の回りの物の中から四角形を見つけようとしている。	
	8	◎平行四辺形の対辺の長さや対角の大きさを調べ、平行四辺形の性質を理解する。	知 平行四辺形の対辺、対角の大きさは等しいことを理解している。	
	9	◎定義や性質に基づいた平行四辺形の見つけ方を理解する。	知 平行四辺形の定義や性質に基づいて、作図することができる。 考 平行四辺形の定義や性質に基づいた作図の仕方を考え、説明している。	
4 ひし形 (教p.102～103)	10	◎「ひし形」の用語とその定義、性質を理解するとともに、定義に基づいたひし形の見つけ方を理解する。	知 「ひし形」の用語とその定義や性質を理解し、定義や性質に基づいて作図することができる。 考 ひし形の対辺や対角に着目し、性質を見出している。	
5 対角線 (教p.104～106)	11	◎「対角線」の用語とその定義を理解するとともに、ひし形の対角線の性質を理解する。	知 四角形の「対角線」の用語とその意味、ひし形の対角線の性質を理解している。	p.104主問題1の折り紙を折って切る活動を、指導者の演示のみにして簡易的に扱い、p.104、105を1時間で扱うことも考えられる。
	12	◎四角形の対角線の性質を調べ、四角形についての理解を深める。	考 対角線に着目して、いろいろな四角形の性質を見出している。	
	13	◎ひし形を対角線で分割してできる三角形の特徴について説明する。	考 ひし形を対角線で分割してできる三角形の特徴を捉え、筋道立てて説明している。	図形の見方を深めたり、説明する力をのばしたりするための学習なので、地域や学校の状況に応じて取り扱わないことや、授業以外で行うことも考えられる。

6 四角形のしきつめ (教p.107)	14 ↓ 配当無	◎合同な平行四辺形、台形、ひし形を敷き詰めてできた形を観察し、それぞれの図形の性質について理解を深める。 *いろいろな条件で平行四辺形を作図し、できた形が長方形やひし形、正方形になることから、四角形の相互関係について知る。	主 合同な平行四辺形、台形、ひし形を敷き詰める活動をたのしみ、平面のひろがりやできる模様の美しさに気づいている。	敷き詰める活動は、学校の授業以外の場で行う。授業では、敷き詰めたものを見て気づいたことを短時間話し合う程度とする。 p.107「いろいろな平行四辺形をかくてみよう」は、地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。
たしかめ問題 (教p.108～109)	15 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 垂直、平行の意味や台形、平行四辺形、ひし形の定義や性質について理解している。また、垂直、平行な直線や、いろいろな四角形を作図することができる。 考 辺の長さに着目し、円の性質やひし形の定義をもとに、ひし形になるわけを説明している。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。
ふくろう先生 のなるほど算数教室2 (教p.110)		◎輪を2つつないだ形を切って開くとどのような形ができるか考え、図形の定義や性質について理解を深める。	考 つないだ輪を切って形をつくる活動をたのしむとともに、輪のつなげ方や大きさと、できあがる図形の関連性に気がついている。 主 輪の大きさやつなげる角度と、できあがる図形の関連性について考え、切った後の形を考えたり、目的の形をつくったりすることができる。	
ふくしゅう (教p.111)		◎復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。		学校の授業以外の場で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。 *算数たまてばこ

## 7 がい数 (指導時期 9月・11時間) → 授業内9時間 + 授業以外2時間

### 単元目標

概数が用いられる場面や概数の意味、表し方を理解し、大きな数量を目的に応じた概数に表してその大きさを捉えたり、計算の見積もりをしたりすることができる。  
 知 概数、四捨五入の意味や表し方について理解し、それを用いて概数に表すことができる。また、以上、以下、未満の意味や使い方、概数の表す数の範囲について理解する。  
 考 数直線などをもとに、数のおよその大きさを捉えることができる。また、場面に着目し、目的に応じて切り捨てて見積もったり、切り上げて見積もったりする必要性を判断し、説明することができる。  
 主 概数を用いて数量を表したり、計算の結果を見積もったりする良さに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 がい数 (教p.112～119)	1	〔アプローチ〕 ◎教p.112の場面をもとに、いろいろな数の意味を考え、概数に対する興味・関心を高める。 ◎大きな数量を絵グラフに表す場面を通して、数値を概数にして表す必要性を理解する。また、「がい数」の用語とその意味を理解する。	知 「がい数」の用語とその意味を理解している。 主 大きな数を概数で表す良さに気づいている。	
	2	◎数直線をもとにして、四捨五入、切り捨て、切り上げの意味とその方法を理解する。	知 「四捨五入」の用語とその意味、表し方を理解し、指定された位の数字を四捨五入して、大きな数を概数で表すことができる。 考 数直線をもとに、概数に表す方法を見出している。	
	3	◎「〇の位までのがい数」の表し方を理解し、表す。	知 「〇の位までのがい数」の意味や表し方を理解し、大きな数を概数で表すことができる。 考 概数に表すときに、どの位を四捨五入すればよいかを考え、説明している。	
	4	◎「上から〇けたのがい数」の表し方を理解し、表す。	知 「上から〇けたのがい数」の意味や表し方を理解し、大きな数を概数で表すことができる。	
* 未満をくわしく調べよう (教p.119)	5	◎「以上」、「以下」、「未満」の用語とそれらの意味を理解し、概数で表された数の範囲を表す。 * 以上、未満を使って表された卵の重さとサイズについて考え、未満の意味の理解を深める。	知 「以上」、「以下」、「未満」の用語とそれらの意味を理解している。 考 四捨五入された位に着目し、概数が表す数の範囲を考えている。	



2 がい数の計算 (教p.120～121)	6 7 8 ↓ 2 時間 扱い	◎概数を用いて、大きな数の和や差を見積もる。	考 計算の目的を捉え、数値を必要に応じた概数になおして考えている。 主 問題場面の数値を概数にして計算する良さに気づき、概数を用いて解決しようとしている。	p.120主問題1, p.121主問題2, p.122主問題1は比較的短時間で扱える内容であるため、鉛筆問題を授業以外の扱いにするなどして、第6, 7時を1時間扱いとしたり、6～8時を2時間扱いとしたりする。
		◎概数を用いて、大きな数の積や商を見積もる。	知 概数を用いて積や商を見積もる方法を理解し、概算することができる。 考 計算の目的を捉え、数値を必要に応じた概数になおして考えている。	
3 がい数の使い方 (教p.122～124)		◎概数を用いて、資料を棒グラフに表す。	知 資料の数値を適切な概数にして、棒グラフに表すことができる。 考 グラフの1目盛りの大きさをもとに、資料の数量を適切な概数に表している。	
	9 10	◎代金の合計について考える場面で、切り上げや切り捨てを用いた適切な見積もりの方法を考える。	知 目的に応じて見積もりの仕方が変わることを理解し、切り上げや切り捨てを用いて適切に見積もりをすることができる。 考 問題の場面に着目し、目的に応じた適切な見積もりの仕方を考え、説明している。 主 それぞれの見積もりの仕方の良さに気づき、生活や学習に生かそうとしている。	
たしかめ問題 (教p.125～126)	11 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 概数を用いる場面を理解し、大きな数を、四捨五入を用いて適切な概数に表すことができる。また、概数が表す数の範囲を「以上」、「以下」、「未満」の用語を用いて表すことができる。 考 場面に応じて、適切な見積もりの仕方を考えている。	学校の授業以外で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。

\* 算数たまたばこ

## 8 2けたの数でわる計算（指導時期 9～10月・15時間） → 授業内13時間 + 授業以外2時間

### 単元の目標

除数が2位数の除法について、既習の計算をもとに筆算の仕方を考え、計算することができる。また、除法に関して成り立つ性質を理解し、工夫して計算することができる。

知 2位数でわる除法の計算の仕方や筆算の仕方を理解し、計算することができる。また、除法では、被除数と除数に0でない同じ数をかけても、0でない同じ数でわっても商は変わらないことを理解し、工夫して計算することができる。

考 2位数でわる除法の計算の仕方を、既習事項や除法に関して成り立つ性質をもとに考え、説明することができる。また、数直線図を用いて、演算決定することができる。

主 2位数でわる除法の計算について、既習事項をもとに考えようとしたり、発展的に桁数の多い計算を考えようとしたりとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 何十でわる計算 (教p.127～129)	1	◎「何十」、「何百何十」÷「何十」の計算原理や方法を理解し、計算する。	知 「何十」、「何百何十」÷「何十」の計算の仕方を理解し、計算できる。 考 何十でわる計算の仕方を、10を単位とした数の見方に着目して考え、説明している。	
	2	◎「何百何十」÷「何十」を、10をもとにして考えたときのあまりの大きさを理解し、計算する。	知 「何百何十」÷「何十」の計算で、10を単位としてみたときのあまりの大きさを理解している。 考 「何百何十」÷「何十」のあまりの大きさについて、10を単位とした数の見方に着目して考え、説明している。	
2 (2けた)÷(2けた)の筆算 (教p.130～134)	3	◎2位数÷2位数で、わりきれの除法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 2位数÷2位数の筆算の仕方を理解し、計算できる。 主 2位数÷2位数の筆算の仕方を、2位数÷1位数の筆算の仕方をもとに考えようとしている。	
	4	◎2位数÷2位数で、あまりのある筆算の仕方を理解し、計算する。	知 2位数÷2位数で、あまりのある筆算の仕方を理解し、計算できる。	
	5	◎2位数÷2位数で、過大商の修正の仕方を理解し、計算する。	知 2位数÷2位数の仮商(過大商)の修正の仕方及び、その筆算の仕方を理解し、計算できる。	
	6	◎2位数÷2位数で、過小商の修正の仕方を理解し、計算する。	知 2位数÷2位数の仮商(過小商)の修正の仕方及び、その筆算の仕方を理解し、計算できる。	
商の見当のつけ方、練習 (教p.135)	7 ↓ 配 当 無	◎商の見当のつけ方を確認・整理し、それに習熟する。	知 商の見当のつけ方を整理し、それを用いて2位数÷2位数の計算をすることができる。 主 2位数の除法の計算をもとに、3位数の除法もできないかと発展的に新しい問題を見出している。	p.135「商の見当のつけ方」は、短時間での扱いとしたり、地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。 「練習」は、学校の授業以外で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。

3 (3けた)÷(2けた)の筆算 (教p.136～138)	8	◎3位数÷2位数で、商が1位数になる場合の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 3位数÷2位数(商が1位数)の筆算の仕方を理解し、計算できる。	
	9	◎3位数÷2位数で、商が2位数になる場合の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 3位数÷2位数(商が2位数)の筆算の仕方を理解し、計算できる。	
	10	◎いろいろな3位数÷2位数の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 いろいろな3位数÷2位数(商が2位数)の筆算の仕方を理解し、計算できる。 主 既習の除法の学習をもとに、さらに桁数の多い除法を考えようとしている。	
4 大きな数のわり算の筆算 (教p.139)	11	◎被除数が4位数の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 被除数が4位数の筆算の仕方を理解し、計算できる。	
5 わり算のきまり (教p.140～141)	12	◎除法では、被除数と除数に0でない同じ数をかけても同じ数でわっても商は変わらないことを理解する。	知 除法に関して成り立つ性質を理解している。 考 被除数と除数の関係に着目し、除法に関して成り立つ性質を帰納的に見出している。	
	13	◎除法に関して成り立つ性質を活用して、計算を工夫する。また、工夫して計算したときのあまりの大きさについて理解する。	知 除法に関して成り立つ性質を活用して計算を工夫したり、あまりの大きさを正しく捉えたりすることができる。	
6 かけ算がは、わり算かな (教p.142)	14	◎数直線図を用いて、乗法や除法の演算決定をする。	考 数直線図を用いて、基準量や比較量の関係を捉え、演算決定できる。	
7 たしかめ問題 (教p.143～144)	15 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 2位数÷2位数、3、4位数÷1、2位数の計算ができ、それを用いて問題を解決することができる。また、数直線図を活用して演算決定できる。 考 除法に関して成り立つ性質を用いた計算の工夫の仕方を説明している。	学校の授業以外で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。

## 9 変わり方（指導時期 10月・5時間） → 授業内4時間 + 授業以外1時間

### 単元の目標

ともなって変わる2つの数量の関係の調べ方を理解し、数量の関係を表や式、グラフに表したり、それらを用いて関係を考察したりすることができる。  
 知 ともなって変わる2つの数量の関係を表に表したり、○、△などを用いて式に表したり、グラフに表したりすることができる。  
 考 ともなって変わる2つの数量を見出し、表や式、グラフを用いて変化や対応の特徴を考察したり、それらを生かして問題を解決したりすることができる。  
 主 ともなって変わる2つの数量の関係を調べるとき、表や式、グラフを用いるとよいことに気づき、学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合で扱う場合の留意点
1 変わり方 (教p.145～151)	1	〔アプローチ〕 ◎教p.145の4つの絵を見て、変わっていくものがいろいろあることに目を向け、2つの数量の依存関係の素地的な見方をする。 ◎対応して変化する2つの数量の関係を表に表したり、その関係を○+△=aの型の式に表したりして考察する。	知 ともなって変わる2つの数量の関係を調べるときは、表や式を用いるとよいことを理解している。 考 場面からともなって変わる量を見出している。また、数量の関係を調べるには順序良く並べればよいことに気づき、表を縦や横に見てきまりを見出している。	
	2	◎2つの数量の関係を表に表したり、○+a=△の型の式に表したりして考察する。	知 2つの数量の関係を○+a=△の型の式に表して、一方の量からもう一方の量を求めることができる。	
	3	◎2つの数量の関係を表に表したり、式に表したりして、規則性について考察する。	考 2つの数量の関係を表や式などを用いて考察し、それを問題解決に生かし、説明している。 主 表や式を用いた既習の調べ方を振り返り、それらを用いて問題を解決しようとしている。	
	4	◎徐々に水が減っていく場面で、水の量の変わり方を折れ線グラフに表し、2つの数量の関係を考察する。	知 2つの数量の関係をグラフに表すことができる。 主 2つの数量の関係を、グラフを用いて調べる良さに気づいている。	
たしかめ問題 (教p.152～153)	5 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 ともなって変わる2つの数量の関係を表に表したり、○、△を用いた式に表したりすることができる。 考 ともなって変わる2つの数量の関係をみ出し、説明している。	学校の授業以外で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。
ふくろう先生のなるほど算数教室3 (教p.154)		◎1→2→4→8→16……と、数を倍にしていって大きな数になることに気づくことを通して、数や計算への興味・関心を高める。	主 2倍を繰り返すと、数が急激に大きくなることに気づき、計算の不思議さに興味・関心をもっている。	
ふくしゅう (教p.155)		◎復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。		学校の授業以外で行う。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。

**10 倍とかけ算, わり算 (指導時期 10月・5時間) → 授業内3時間 + 授業以外2時間**

**単元目標**

比較量を求める場合は乗法, 倍(割合), 基準量を求める場合は除法が用いられることの理解を深める。また, 数量の関係の比べ方を考え, 倍(割合)を用いて比べる場合があることを理解する。  
 知 比較量を求める場合は乗法, 比較量が基準量の何倍かを求める場合や, 基準量を求める場合は除法が用いられることを理解するとともに, 割合の意味を理解し, 割合を用いて数量の関係を比べることができる。  
 考 図を用いて基準量, 比較量, 割合の関係を捉え, 説明することができる。また, 割合に着目し, ゴムの伸び方などの比べ方を考え, 場面に合った比べ方を判断することができる。  
 主 図を用いて数量の関係を捉えようとする。また, 場面に合った数量の関係の比べ方を追求しようとしたり, それを生活や学習に生かそうとしたりする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 倍とかけ算, わり算 (教p.156～159)	1 2 ↓ 1 時間扱い	◎基準量を何倍かした大きさを求めるときは乗法が用いられることの理解を深める。	知 比較量を求めるときは乗法が用いられることや, そのときの数量の関係について理解している。 考 図を用いて数量の関係を考え, 説明している。	2～3年で既習の倍とかけ算, わり算の学習を全体で簡単に復習してから主問題1, 2を簡易的に扱うことで, 1時間で指導する。
		◎比較量が基準量の何倍かを求めるときは除法が用いられることの理解を深める。	知 倍を求めるときは除法が用いられることや, そのときの数量の関係について理解している。 考 図や乗法を用いて数量の関係を考え, 説明している。	
	3	◎基準量を求めるときは除法が用いられることの理解を深める。	知 基準量を求めるときは除法が用いられること, そのときの数量の関係について理解している。 主 倍を求めるときに図や乗法を用いたことを振り返り, 基準量を求めるときにも生かそうとしている。	
	4	◎整数倍を使って, 数量の関係を比べることができることを理解する。 ◎「割合」の用語とその意味を理解する。	知 整数倍(割合)を用いて, 数量の関係を比べることができることを理解している。 考 数量の関係(割合)に着目し, ゴムの伸び方などの比べ方を考え, 場面に合った比べ方を判断している。	
たしかめ問題 (教p.160)	5 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し, それに習熟する。	知 比較量を求めるときは乗法, 割合や基準量を求めるときは除法が用いられることを理解している。また, 整数倍(割合)を用いて, 数量の関係を比べることができる。	学校の授業以外の場合で行うか, 答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまづきが見られる場合は, 個別に支援する。
* どんないく算するのかな (教p.161)	1	* 問題場面を捉え, 対応する数直線図を選び, 演算決定をする。	知 数直線図の読み取り方を理解している。 考 問題場面と数直線図を結び付け, 演算決定している。	地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。
読み取る力をのばそう (教p.162)	1	◎まとめて買うと様々な割引がある場面で, 提示された情報を比較検討し, 目的に適した情報を選択する。	考 提示された情報の中から, 必要な情報を選び取り, 目的に適した求め方を考えている。 主 提示された情報を比較し, 問題解決に必要な情報を見出そうとしている。	地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。

\* 算数たまたばこ

**11 小数 (指導時期 11月・13時間) → 授業内12時間 + 授業以外1時間**

**単元目標**

1/1000の位までの小数の表し方や大きさ, 大小などについて理解し, 数の仕組みに着目して加法及び減法の計算の仕方を考え, 筆算で計算することができる。  
 知 1/1000の位までの小数の表し方や構成, 順序, 系列, 大小について理解し, 小数の加法及び減法の計算が筆算でできる。  
 考 既習の学習をもとに, 0.1よりも小さい単位をつくることを考えたり, 数の仕組みに着目して, 小数の加法や減法の仕方を考え, 説明したりすることができる。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 小数の表し方 (教p.163～166)	1	◎1/100の位までの小数の表し方や読み方を理解する。	知 かさに関する測定値について, 1/100の位までの小数の表し方, 読み方を理解し, 表したり読んだりすることができる。 考 はしたの表し方について, 0.1の単位をつかったときの考えをもとに類推的に考えている。	
	2	◎1/100の位までの小数を用いて, m単位で長さを表す。	知 長さに関する測定値について, 1/100の位までの小数で表したり, 読んだりすることができる。 主 1/100の位までの小数の学習をもとに, さらに小さい数も表せないかと, 発展的に新しい問題を見出している。	

	3	◎1/1000の位までの小数の表し方や読み方を理解する。	知 具体的な測定値について、1/1000の位までの小数の表し方や読み方を理解し、表したり読んだりすることができる。	
2 小数と整数のしくみ (教p.167～171)	4	◎0.001までの大きさを理解し、小数も十進位取り記数法に基づいていることを理解し、各位の名称を知る。	知 小数は整数と同じように十進数の仕組みになっていることや各位の名称を理解している。	
	5	◎小数を、数の構成をもとに、0.01を単位として相対的にみて表す。	知 小数を0.01や0.001をもとにして相対的にみて表すことができる。 考 小数を0.01や0.001のいくつ分で表す方法を考え、説明している。	
	6	◎小数と小数、小数と整数の大小比較の仕方を理解する。	知 1/100、1/1000の位までの小数の大小比較の仕方を理解している。 考 小数の大小比較の仕方を数の仕組みや数直線をもとに考え、説明している。	
	7	◎小数を10倍、100倍した数や、1/10、1/100にした数について理解する。	知 小数を10倍、100倍した数や1/10、1/100にした数について理解している。	
3 数の見方 (教p.172)	8	◎1つの数を多面的にみて表す。	考 1つの小数を多面的にみて表すことができる。 主 数をいろいろな見方で表そうとしている。	
4 小数の計算 (教p.173～177)	9	◎小数の加法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 1/1000の位までの小数の加法の計算の仕方や筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 数の仕組みに着目し、小数の加法の計算の仕方を、既習事項をもとに考え、説明している。	
	10	◎小数点以下の桁数が異なる加法や、答えの末尾が0になる加法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 小数点以下の桁数が異なる加法や、答えの末尾が0になる加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 主 小数の加法の学習をもとに、小数の減法もできないかと、発展的に新しい問題を見出している。	
	11	◎小数の減法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 1/100の位までの小数の減法の計算の仕方や筆算の仕方を理解し、計算できる。	
	12	◎小数点以下の桁数が異なる減法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 1/1000の位までの小数の減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。	
たしかめ問題 (教p.178～179) * 小数をさがそう (教p.179)	13 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。 * 身の回りから小数で表されている物を探す。	知 1/1000の位までの小数の表し方や大小比較の仕方を理解し、加減の計算ができる。 考 0.001をもとにして、整数－小数の計算の仕方を考え、説明している。	学校の授業以外の場合で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間でやる。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。

\* 算数たまてばこ

## 12 面積（指導時期 11～12月・10時間） → 授業内8時間＋授業以外2時間

### 単元の目標

面積の比べ方を考え、面積の単位と求積公式について理解し、長方形や正方形の面積を求めたり、複合図形の求積方法や面積の単位の相互の関係について考察したりすることができる。

知 面積の単位「 $\text{cm}^2$ 」、「 $\text{m}^2$ 」、「 $\text{km}^2$ 」、「 $\text{a}$ 」、「 $\text{ha}$ 」とその関係や、長方形と正方形の求積公式について理解し、公式を用いて面積を求めることができる。

考 単位の考え方をういたり、図形の構成要素に着目したりして、面積の表し方や複合図形の求積方法、単位の関係について考え、説明することができる。

主 面積を数値化して表す良さに気づき、生活や学習に生かそうとしたり、複合図形の面積の求め方について、多面的に考え、より良い方法を追求しようとしたりする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 広さの表し方 (教p.180～183)	1 2 ↓ 1時間扱い	【アプローチ】 ◎教p.180の場面をもとに、広さの比べ方を考え、本単元の学習の見通しをもつ。	考 長さやかさ、重さでの比べ方をもとに、面積を数値化して比べる方法を考え、説明している。 主 単位を用いて広さを数値化して表す良さに気づいている。	p.180、181の導入を簡易的な扱いにし、p.183の鉛筆問題を第3時に扱うなどして、p.180～183を1時間で指導する。
		◎広さの比べ方を考え、1辺が1cmの正方形のいくつ分かで面積を数値化する。		
		◎「面積」の用語とその意味を理解する。 ◎面積の単位「 $\text{cm}^2$ 」を知り、図形の面積を $\text{cm}^2$ で表す。	知 面積の単位「 $\text{cm}^2$ 」の意味を理解し、面積を $\text{cm}^2$ の単位で表すことができる。	
2 長方形と正方形の面積 (教p.184～188)	3	◎長方形や正方形の面積を計算で求める方法を理解し、それらを求積公式にまとめて適用する。	知 長方形や正方形の求積公式を理解し、面積を求めることができる。	



	4	◎周りの長さでは面積が決まらないことを理解する。 ◎長方形の面積と一方の辺の長さから、もう一方の辺の長さを求める方法を考える。	知 長方形の求積公式を用いて、長方形の面積と一方の辺の長さから、もう一方の辺の長さを求めることができる。 考 長方形や正方形の周りの長さと面積の関係について考え、見出したことを説明している。	
	5	◎複合図形の面積を、求積公式を適用して求める。	考 図形の構成の仕方に着目して複合図形の求積方法を考え、説明している。 主 複合図形の面積の求め方について多面的に考えようとしたり、より良い求め方を考えようとしたりしている。	
3 いろいろな面積の単位 (教p.189～193)	6	◎面積の単位「 $m^2$ 」を知り、面積を $m^2$ で表す。	知 面積の単位「 $m^2$ 」の意味を理解している。 主 広いところの面積を表す場面で、 $m^2$ を単位として表すことの良さに気づいている。	
	7	◎「 $m^2$ 」と「 $cm^2$ 」の関係を理解する。また、縦と横で長さの単位が異なる長方形の面積を求める。 ◎身の回りの物の面積を求める。	知 「 $m^2$ 」と「 $cm^2$ 」の関係を理解している。 主 身の回りのいろいろな物の面積を調べようとしている。	
	8	◎面積の単位「 $km^2$ 」を知り、面積を $km^2$ で表す。 ◎「 $km^2$ 」と「 $m^2$ 」の関係を理解する。	知 面積の単位「 $km^2$ 」の意味と、「 $m^2$ 」との関係を理解している。	
	9	◎面積の単位「a」、「ha」を知り、面積をa、haで表す。 ◎面積の単位の間を、正方形の1辺の長さに着目して整理する。	知 面積の単位「a」「ha」の意味と、「 $m^2$ 」との関係を理解している。 考 いろいろな面積の単位どうしの関係を、正方形の辺の長さに着目して考え、説明している。 主 面積を表すとき、その広さに対して適切な単位を用いることの良さに気づいている。	
たしかめ問題 (教p.194～195)	10 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 面積の意味や求積公式をもとに、面積を求めることができる。また、「 $cm^2$ 」、「 $m^2$ 」、「 $km^2$ 」とその関係について理解している。 考 複合図形の求積方法を式から読み取り、図に表すことができる。	学校の授業以外で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間でやる。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。

## そろばん（指導時期 12月・2時間） → 授業内2時間

### 単元の目標

大きな数や小数のそろばんでの読み方や表し方を理解する。また、そろばんによる2位数の加法とその逆の減法の計算、大きな数や小数の簡単な加減の計算ができる。

知 そろばんによる2位数の加法とその逆の減法の計算の仕方及び大きな数(億や兆の位まで)や小数(1/100の位まで)の表し方とそれらの加減の計算の仕方を理解する。

考 そろばんの仕組みに着目し、加減の計算の仕方を考え、説明することができる。

主 そろばんが十進位取り記数法の仕組みをもとに作られていることの良さに気づき、そろばんで数を表したり計算したりしようとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
そろばんのしくみと数の読み方、表し方 (教p.196)	1	◎大きな数や小数のそろばんでの読み方や表し方を理解する。	知 大きな数や小数のそろばんでの読み方や表し方を理解している。また、2位数の加法の運珠法を理解している。	
たし算とひき算 (教p.197)		◎繰り上がりのある2位数どうしの加法の運珠法を理解し、計算する。	考 そろばんの仕組みに着目し、加法の計算の仕方を考え、説明している。	
	2	◎減数が2位数で繰り下がりのある減法の運珠法を理解し、計算する。 ◎大きな数や小数の加法、減法の運珠法を理解し、計算する。	知 2、3位から2位数をひく減法の運珠法や、大きな数や小数の簡単な計算の運珠法を理解している。 考 そろばんと十進位取り記数法の仕組みを関連付けて考えている。 主 そろばんの仕組みの良さに気づいている。	
ふくろう先生のなるほど算数教室4 (教p.198)		◎連続する自然数の和を工夫して求める方法を考える。	考 1からある数まで連続して順序良く並んだ数の和を、工夫して求める方法を考えている。 主 工夫した計算の仕方の良さや、計算の不思議さに気づいている。	
ふくしゅう (教p.199)		◎復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。		学校の授業以外で行う。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。

**13 小数と整数のかけ算・わり算**（指導時期 1～2月・14時間） → 授業内12時間 + 授業以外2時間

**単元の目標**

小数に整数をかける乗法や、小数を整数でわる除法について、計算の意味や計算の仕方を既習の計算をもとに考え、筆算で計算することができる。  
 知 小数に整数をかける乗法や、小数を整数でわる除法の意味や計算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。また、小数倍の意味を理解する。  
 考 既習の整数の乗法、除法の計算や小数の仕組みをもとにして、小数に整数をかける乗法や、小数を整数でわる除法の計算の仕方を考え、説明することができる。  
 主 小数に整数をかける乗法や、小数を整数でわる除法の計算の仕方について、既習の計算をもとに考えようとしたり、発展的に新しい計算について考えようとしたりする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 小数×整数 (教p.200～205)	1	〔アプローチ〕 ◎教p.200の場面をもとに、被乗数が小数の場合の計算について考え、本単元の学習の見通しをもつ。 ◎純小数(1/10の位)×整数(1位数)の意味と計算原理、方法を理解し、計算する。	知 純小数(1/10の位)×整数(1位数)の意味や計算の仕方を理解している。 考 純小数(1/10の位)×整数(1位数)の計算の仕方について、小数を0.1を単位にしてみることに着目し、整数の乗法に帰着して考え、説明している。	
	2	◎帯小数(1/10の位)×整数(1位数)の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 帯小数(1/10の位)×整数(1位数)の筆算の仕方を理解し、計算できる。また、積の末尾が0になる場合の処理の仕方を理解している。	
	3	◎小数(1/10の位)×整数(2位数)の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 小数(1/10の位)×整数(2位数)の筆算の仕方を理解し、計算できる。	
	4	◎小数(1/100の位)×整数の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 小数(1/100の位)×整数(1, 2位数)の筆算の仕方を理解し、計算できる。 主 小数×整数の学習をもとに、小数÷整数もできないかと発展的に新しい問題を見出している。	
練習 (教p.206)	5 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容に習熟し、それを活用する。	知 小数×整数の計算が筆算ででき、それを用いて問題を解決することができる。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。
2 小数÷整数 (教p.207～212)	6	◎帯小数(1/10の位)÷整数(1位数)の意味や計算原理、方法を理解し、計算する。	知 帯小数(1/10の位)÷整数(1位数)の意味や計算の仕方を理解している。 考 帯小数(1/10の位)÷整数(1位数)の計算の仕方について、小数を0.1を単位にしてみることに着目し、整数の除法に帰着して考え、説明している。	
	7	◎各位がわりきれない場合の帯小数(1/10の位)÷整数(1位数)の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 帯小数(1/10の位)を整数(1位数)でわる除法の計算の仕方や筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 一の位がわりきれない場合の帯小数(1/10の位)÷整数(1位数)の計算の仕方について、小数を0.1を単位としてみることに着目して考え、説明している。	
	8	◎小数(1/10の位)÷整数(1位数)で、商が1より小さくなる場合の筆算の仕方を理解し、計算する。 ◎帯小数(1/10の位)÷整数(2位数)の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 帯小数(1/10の位)÷整数(1, 2位数)の筆算の仕方を理解し、計算できる。	
	9	◎小数(1/100の位)÷整数(1, 2位数)の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 帯小数(1/100の位)÷整数(1, 2位数)の筆算の仕方を理解し、計算できる。	
3 あまりのあるわり算 (教p.213)	10	◎あまりのある小数÷整数の計算で、あまりの大きさを理解し、計算する。	知 小数÷整数で、あまりの小数点は被除数の小数点にそろえてうつことを理解し、あまりを求めたり、答えを確かめたりすることができる。	
4 わり進みの計算 (教p.214～215)	11	◎わり進んで商を求める小数÷整数の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 小数÷整数で、わり進んで商が小数になる場合の筆算の仕方を理解し、計算できる。	
	12	◎整数÷整数で商をわり進んで求めたり、概数で求めたりする。	知 整数÷整数で、わり進んで商が小数になる場合の筆算の仕方を理解し、計算できる。また、整数÷整数や小数÷整数で、商を四捨五入して概数で表すことができる。	
5 小数と倍 (教p.216～217)	13	◎何倍かを表すときに小数を用いることがあることを理解する。	知 何倍かを表す数が小数になることがあることを理解し、除法を用いて小数倍を求めることができる。 考 小数倍の意味について、数直線図などをもとに考え、説明している。	

たしかめ問題 (教p.218～219)	14 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解している か確認し、それに習熟する。	知 小数×整数、小数÷整数の計算 が筆算でできる。また、それを用いて 問題を解決することができる。 考 小数(1/1000の位)×整数(1位 数)の計算の仕方を、小数(1/100の 位)×整数(1位数)の計算の仕方をも とに考え、説明している。	学校の授業以外で行うか、答え合わせの み授業内で短時間で行う。つまずきが見られ る場合は、個別に支援する。
------------------------	------------------------	-----------------------------------	--	---

## 14 分数 (指導時期 2月・10時間) → 授業内8時間 + 授業以外2時間

### 単元目標

真分数、仮分数、帯分数の意味や分数の大小について理解し、加法及び減法の計算の仕方を考え、計算することができる。  
 知 真分数、仮分数、帯分数の意味や表し方、相互の変換の仕方について理解するとともに、分数の大小について理解し、それらを用いて同分母分数  
 の加法及び減法の計算をすることができる。  
 考 単位分数などに着目し、仮分数と帯分数の変換の仕方や加法及び減法の計算の仕方などを考え、説明することができる。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 分数の表し方 (教p.220～225)	1	〔アプローチ〕 ◎教p.220をもとに、分数の既習事項 を振り返り、本単元の学習の見通しを もつ。 ◎1より大きい分数の表し方や、「真分 数」、「仮分数」、「帯分数」の用語とそ れらの意味を理解する。	知 「真分数」、「仮分数」、「帯分数」 の用語とそれらの意味や表し方を理 解している。 主 1を超える分数について、その表 し方を既習の分数の表し方をもとにし て考えようとしている。	
	2	◎仮分数を帯分数で表す方法を理解 する。	知 仮分数を帯分数で表す方法を理 解している。 考 1となる分数に着目して、仮分数 を帯分数で表す方法を考えている。	
	3	◎帯分数を仮分数で表す方法を理解 する。	知 帯分数を仮分数で表す方法を理 解している。 考 単位分数に着目して、帯分数を仮 分数で表す方法を考えている。	
2 分数の大きさ (教p.226～228)	4 5 ↓ 1 時間 扱い	◎分数を数直線上に表して、大きさの 等しい分数を見つける。 ◎同分子の分数の大小比較の仕方を 理解する。	知 分母が異なる分数でも、大きさの 等しい分数があることを理解してい る。また、分子が同じ真分数や仮分数 の大きさの比べ方を理解している。 考 単位分数の大きさに着目して、分 子が同じ真分数の大きさの比べ方を 考えている。	p.227、228の鉛筆問題を授業以外の扱いにす るなどして、p.226～p.228を1時間扱いとする。 「練習」は、学校の授業以外で行うか、答 え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまず きが見られる場合は、個別に支援する。
練習 (教p.228)		◎同分母の仮分数と帯分数の大小比 較の仕方を理解する。 ◎基本的な学習内容に習熟し、それを 活用する。	知 同分母の仮分数と帯分数の大き さの比べ方を理解している。 考 仮分数と帯分数の大きさの比べ 方について、どちらかにそろえて考え、 説明している。	
3 分数の計算 (教p.229～232)	6	◎同分母の真分数や仮分数の加法、 減法の計算原理や方法を理解し、計 算する。	知 同分母の真分数や仮分数の加法 や減法の計算の仕方を理解し、計算 できる。 考 同分母の真分数や仮分数の加法 や減法の計算の仕方について、単位 分数に着目して考え、説明している。	
	7	◎同分母の帯分数の加法の計算原理 や方法を理解し、計算する。	知 同分母の帯分数の加法の計算の 仕方を理解し、計算できる。 主 帯分数の加法をもとに、減法もで きないかと発展的に新しい問題を見出 している。	
	8	◎同分母の帯分数の減法(整数部分 からの繰り下がりがなし)の計算原理や 方法を理解し、計算する。	知 繰り下がりのない同分母の帯分 数どうしの減法の計算の仕方を理解 し、計算できる。 考 繰り下がりのない同分母の帯分 数どうしの減法の計算の仕方を、加法 と同じように考えている。	
	9	◎同分母の帯分数の減法(整数部分 からの繰り下がりがあり)の計算原理や 方法を理解し、計算する。	知 同分母の帯分数や整数から真分 数や帯分数をひく計算で繰り下がりが ある場合の計算の仕方を理解し、計 算できる。 考 分数の仕組みに着目し、同分母 の帯分数や整数から真分数や帯分数 をひく計算で、繰り下がりがあ場合 の計算の仕方を考え、説明している。	
たしかめ問題 (教p.233～234)	10 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解している か確認し、それに習熟する。	知 帯分数、仮分数の表し方や変換 の仕方を理解し、同分子、同分母の分 数の大小比較ができる。また、同分母 分数の加減の計算ができる。 考 分数の加法の計算の仕方を、1と みるものの違いをもとに考え、説明し ている。	学校の授業以外で行うか、答え合わせの み授業内で短時間で行う。つまずきが見られ る場合は、個別に支援する。

ふくろう先生の なるほど算数教室5 (教p.235)	◎小数と分数の表し方の歴史を知り、 数の表し方に対する興味・関心を高め る。	主 小数と分数の歴史に触れ、現在 の小数や分数の記数法の良さに気づ いている。	
----------------------------------	--	---	--

## 15 直方体と立方体 (指導時期 2～3月・9時間) → 授業内8時間 + 授業以外1時間

### 単元の目標

構成要素に着目して立体を分類し、直方体、立方体の定義や特徴、展開図や見取図のかき方、面や辺の垂直・平行関係について理解する。また、平面や空間での物の位置の表し方を理解する。  
 知 直方体や立方体の定義や構成要素の数と位置関係について理解し、展開図や見取図をかくことができる。また、平面や空間での位置の表し方を理解し、数の組を用いて表すことができる。  
 考 立体の構成要素や、それらの位置関係に着目し、直方体や立方体の特徴を見出したり、展開図や見取図のかき方を考えたりすることができる。  
 主 既習の図形の見方を生かして図形を調べようとしたり、身の回りから直方体や立方体、面や辺の垂直関係を見つけようとしたりする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 直方体と立方体 (教p.236～239)	1	【アプローチ】 ◎教p.236をもとに形を当てるゲームをして、立体に対する興味・関心を高める。 ◎箱の形を分類する活動を通して、「直方体」、「立方体」の用語とそれらの定義を理解する。	知 「直方体」や「立方体」の用語とそれらの定義を理解している。 考 箱の形を、構成要素に着目して分類している。 主 身の回りのいろいろな物の形に進んで関わり、その特徴を調べようとしている。	
	2	◎直方体や立方体の頂点、辺、面などの構成要素の数を調べ、共通点や相違点を考える。	知 直方体や立方体の頂点、辺、面の特徴を理解している。 考 直方体や立方体の構成要素の数、面の形などの特徴を見出している。	
2 展開図 (教p.240～242)	3	◎「展開図」の用語とその意味を理解し、展開図をかいて直方体をつくる。	知 直方体の辺や面のつながりや位置関係を理解している。 考 直方体の辺や面のつながりや位置関係に着目して展開図のかき方を考えている。	
	4	◎立方体の展開図をかいて立方体をつくる。	知 立方体の辺や面のつながりや位置関係を理解している。	
3 面や辺の垂直と平行 (教p.243～245)	5	◎直方体の面と面、辺と辺、面と辺の垂直、平行の関係について理解する。	知 直方体の面や辺の垂直、平行の関係を理解している。 考 直方体の面や辺の垂直、平行の関係をj見出している。 主 身の回りから垂直や平行な面、辺をいろいろと見つけようとしている。	
	6			
4 見取図 (教p.246)	7	◎「見取図」の用語とその意味、かき方を理解し、直方体や立方体の見取図をかく。	知 直方体や立方体の見取図をかくことができる。	
5 位置の表し方 (教p.247～248)	8	◎平面上の点の位置は2つの数の組で、空間にある点の位置は3つの数の組で表せることを理解する。	知 平面上の点の位置は、横、縦の2つの長さで決まることや、空間にある点の位置は横、縦、高さの3つの長さで決まることを理解している。 考 平面上の位置の表し方をもとに、空間の位置の表し方を考えている。	
たしかめ問題 (教p.249～250)	9 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 直方体や立方体の面や辺の垂直、平行の関係、展開図の読み取り方、見取図のかき方を理解している。 考 辺や面のつながりや位置関係に着目し、展開図を組み立ててできる立体の構造を考えている。	学校の授業以外の場合で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。

ふくろう先生の なるほど算数教室6 (教p.251)		◎算数を仕事に生かしている方へのインタビューを読み、算数への学習意欲を高める。	主 算数が仕事や生活に生かされていることを知り、算数の学習に対する意欲を高めている。	
4年のふくしゅう (教p.252～255)	1 2 ↓ 1時間扱い	◎4学年の復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。		問題を解くのは、授業以外の場合とする。答え合わせは授業以外で行うか、授業内で1時間扱いで行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。
プログラミングに挑戦！		◎既習の計算や作図などを振り返り、アルゴリズムの考え方を理解する。	知 計算や作図など算数の学習の様々なものが一定の手順によって定式化されていることを理解している。	